

勝川遺跡

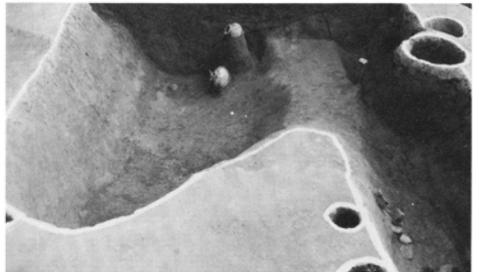
勝川遺跡は鳥居松面とよばれる洪積段丘面の南端付近に立地する。昭和56年度以来約13500m²にわたる発掘調査を実施し、勝川遺跡は、Ⅰ期：弥生時代中期、Ⅱ期：弥生時代後期～古墳時代、Ⅲ期：奈良・平安時代（勝川廃寺の時期）、Ⅳ期：江戸時代後期～明治時代初期（下街道の宿場町の時期）の四期にわけられる複合遺跡であることが明らかになった。本年度は国鉄瀬戸線建設と土地区画整理事業の事前調査として約1313m²（A区1213m²、B区100m²）を発掘調査した。A区ではⅡ期の土坑1、Ⅲ期の溝3条、掘立柱建物1棟、Ⅳ期の土坑、溝、井戸等を検出した。B区ではⅡ期の方形周溝墓3基、Ⅲ期の溝1条、Ⅳ期の土坑、溝等を検出した。A区のⅢ期の掘立柱建物は規模が不明であるものの、勝川廃寺の推定中軸線上に位置することから主要伽藍の可能性が高い。溝S D 10等のⅣ期の遺構はまだ検討を必要とするが、町屋復元の有効な資料となりうると考えられる。（松原隆治）



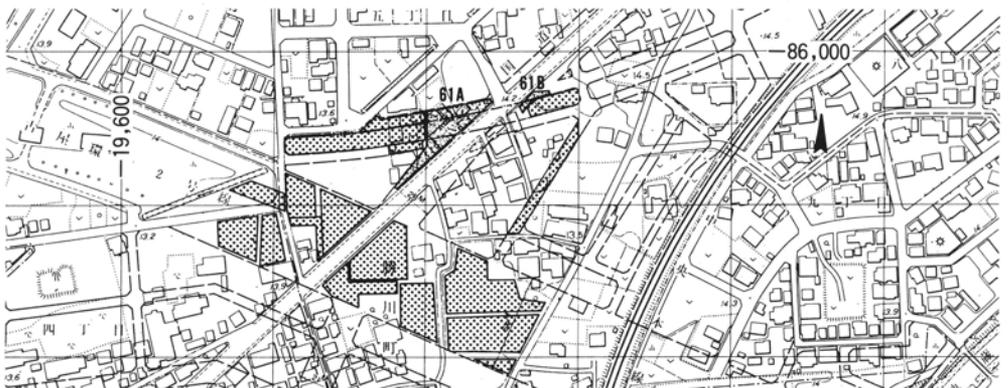
61A区（北より）



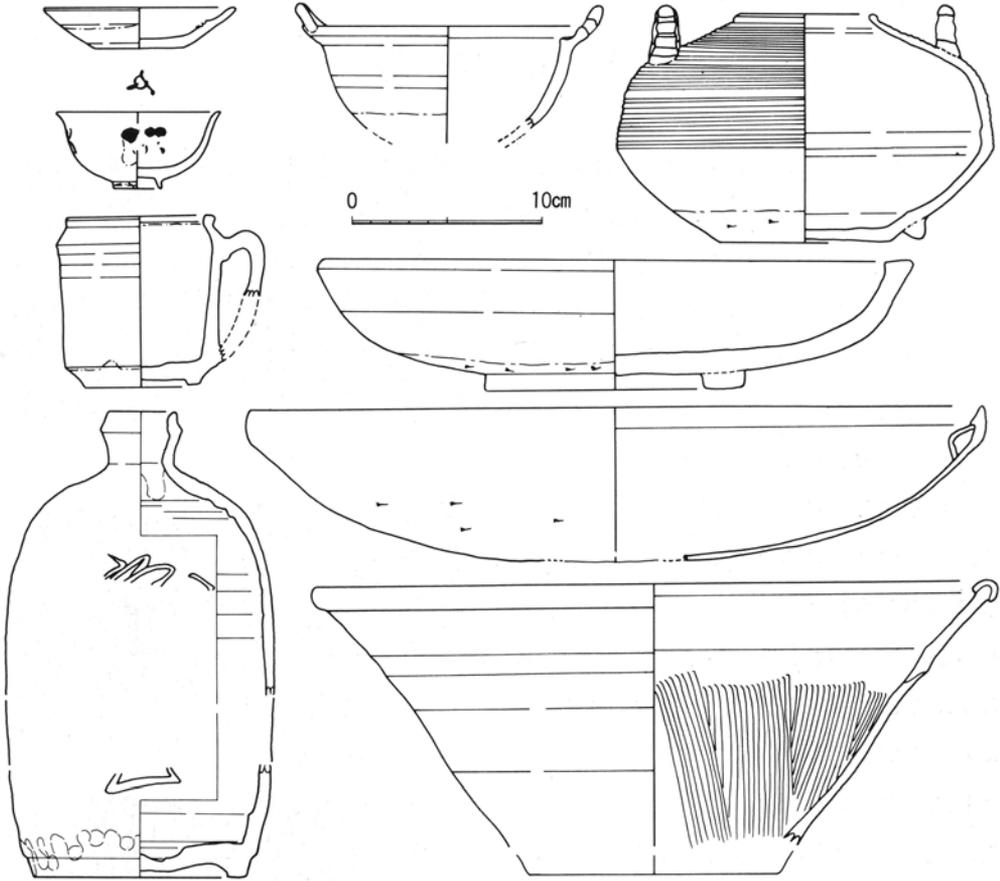
S D 10遺物出土状況（東より）



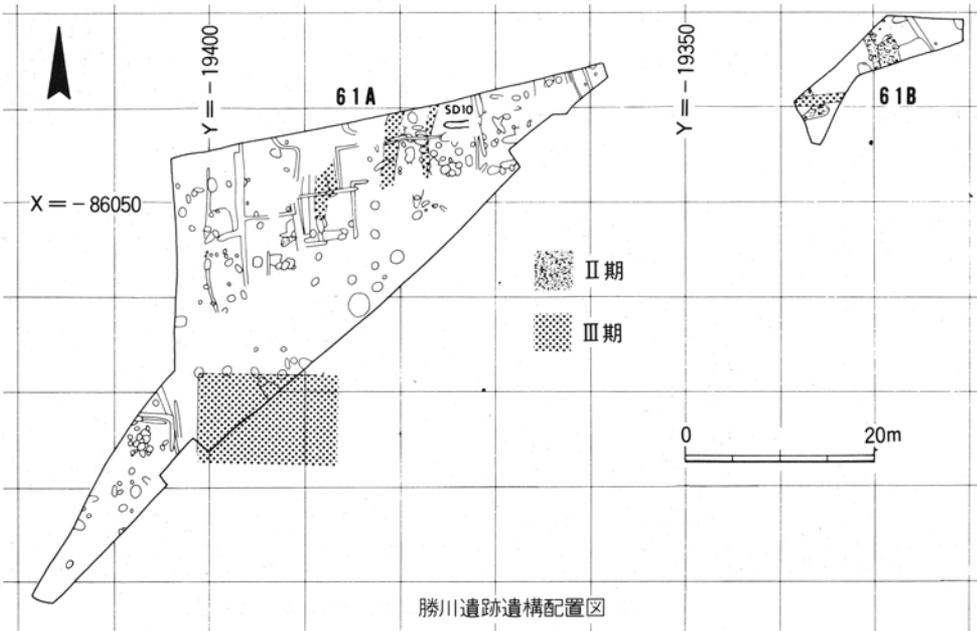
S Z 02・03遺物出土状況（北より）



調査区位置図1/5000（アミは60年度以前の調査区）



SD10出土遺物(1/4)



勝川遺跡遺構配置図